

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

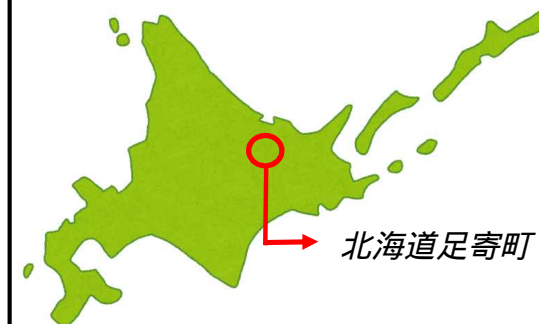
取組の概要

取組の概要 : 次代を担う産地強化への体制整備
計画作成主体 : 足寄町農業再生協議会
対象品目 : 加工馬鈴薯(産地目標面積:150ha)
主な取組主体 : (株)北海道ちぬやファーム
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
助成金の活用 : 整備事業(馬鈴薯集出荷貯蔵施設)
状況

ポイント

(株)北海道ちぬやファームと馬鈴薯生産者、JAあしよるの新たな連携により、チップス原料からコロッケ原料への用途変更に伴い規格・出荷幅が拡大し、収穫時の選別作業の省力化及び単収の増加に繋がり、販売額66%以上の増加を実現。

地区の概要



産地の現状と目標

現状:H25~27年度平均

作付面積:64.97ha(出荷数量:2,203.6t)
収穫時要員:7人
単収:3,391.8kg/10a

目標:H30年度

作付面積:150ha(出荷数量:6,000t)
収穫時要員:4人
単収:4,000.0kg/10a



推進体制

地域の関係者(足寄町、足寄町農業協同組合、地元農業改良普及センター、農業関係者等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

作付面積拡大に向けた主な取組

多収量品種の検討
ライマン価を求めた肥培管理から多収量を目指した肥培管理への変更研究
収穫サポート体制の確立検討
種芋のJA一元消毒の実施検討
足寄産馬鈴薯を使用したコロッケの販売(生産者の顔を乗せたPOP等で全国的にアピールする)

事業効果

産地への集出荷貯蔵施設の整備により、原料馬鈴薯の効率的な集荷・選別が可能となり、営業倉庫から新たに整備する冷蔵貯蔵庫への転換により原料の品質保持や原料輸送リスクの軽減が図られる。

原料用途の変更に伴う出荷幅の拡大により販売額の増加と生産者の所得向上につながり、馬鈴薯の産地強化を実現。

馬鈴薯作付けにより、輪作体系を確立し、他作物の収量アップにつなげる。

~10a当たり販売額~

